

第67回日本東洋医学会学術総会スポンサーセミナー1

第23回 東洋医学シンポジウム

漢方エキス製剤の
上手な使い方

困ったときの この一手

日時

2016年6月4日(土) 9:00~11:00

会場

第3会場 (サンポートホール高松 5F 第2小ホール)

〒760-0019 高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー・ホール棟2階 TEL:087-825-5000 FAX:087-825-5040

オーガナイザー

木村 容子 先生

東京女子医科大学 東洋医学研究所

シンポジスト

岡村 麻子 先生

つくばセントラル病院 産婦人科

渡辺 奈津 先生

大阪・わたなべ皮膚科・形成外科

木許 泉 先生

愛知・広瀬クリニック(小児科)

桑島 靖子 先生

香川・桑島内科医院

原田 智子 先生

倉敷中央病院 精神科

盛岡 頼子 先生

東京・成城漢方内科クリニック

共催

第67回日本東洋医学会学術総会

クラシエ薬品株式会社

第23回 東洋医学シンポジウムのご案内

オーガナイザー

木村 容子

東京女子医科大学 准教授 東洋医学研究所 副所長

< 緒 言 >

クラシエのスポンサードセミナーは昨年の富山大会より総会の正式プログラムとなり2年目、寺澤捷年先生、後山尚久先生から引継ぎまして通算23回目を迎えました。

本シンポジウムは昨年新たなテーマとして立ち上げた「漢方エキス製剤の上手な使い方 ―困ったときのこの一手―」を継続し、引き続き現代医療へエキス漢方を取り入れる実践的な方法をご紹介しますと考えております。

今回も、内科、産婦人科、皮膚科・形成外科、小児科、精神科、漢方診療科の先生方にシンポジストとしてご参加いただき、幅広い分野にわたる漢方治療の実際についてご紹介いただきます。

第一部では、西洋医学的治療だけでは十分とは言えない疾患や病態に対し、漢方エキス製剤を治療に組み込むことで、より優れた効果や高い満足度が得られた症例についてご提示いただき、日常診療における漢方療法、とりわけエキス製剤の使い方について話し合います。

第二部では、幸いにも昨年ご好評をいただいた、「現代の口訣」を探る試みを行ないたいと思います。今回は、頻用処方の中から五苓散と柴胡加竜骨牡蛎湯について各科での使用経験を提示していただき、処方の臨床応用について深く掘り下げて参ります。

各先生方が診察時に頭の中で考えていることをできる限り具現化することで、明日からの臨床に少しでもお役に立てるシンポジウムを目指したいと思います。